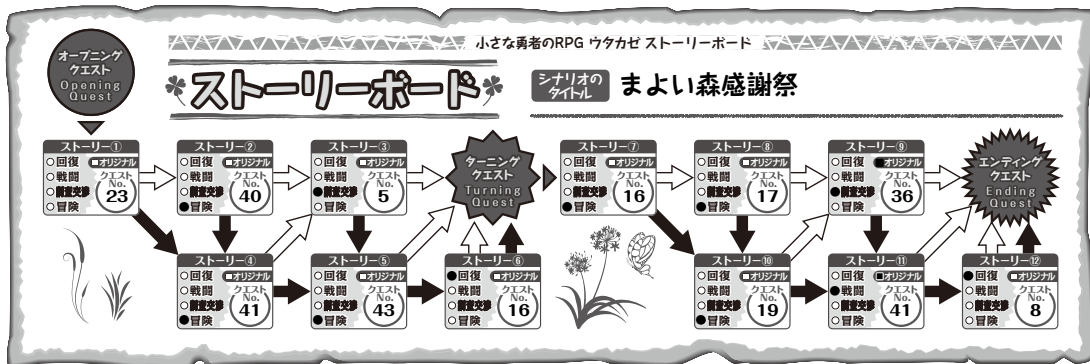


シナリオ：まよい森感謝祭



シナリオ作成：柳井遼

シナリオレベル：3

予定セッション時間：1時間30分

GMレス：不可

■プロローグ

澄み渡る空。

涼風が秋を運び、まよい森の木々を黄色や赤に彩っています。

足元にはクリやドングリといった木の実が落ち、木の枝にはアドウな匂いの旬の果実が実っていました。

近々、このまよい森では秋を祝ってお祭りが開催されるようです。

誰もが秋を楽しみにしていました。

しかし――。

空に広がる大きな黒い影。

涼風は秋と共によからぬものを運んで来てしまったようです。

■オープニングクエスト

窓から吹き抜ける風が彼女の艶やかな髪を揺らします。

ここは、歌風の龍樹のとある一室――ウタカゼの師であるフィノ師の部屋です。

フィノ師は弟子であるウタカゼたちから聞いた冒険の報告を本にまとめ終えると、本を閉じて大きく伸びをします。

すると、開けていた窓から1匹のツタエバチが姿を現し、机の上に止まりました。

「誰からの手紙かしら？」

フィノ師は首を傾げて、手紙を見ると「あっ！」と思わず声を上げました。

「もうそんな時期だったのね……。最近忙しくてすっかり忘れていたわ。ゆうしましよ……」

しばらく考えた結果、フィノ師は、ぼん、と手を叩いて、

「そうぞ、あの子たちに行ってもらしましょう」

と、すぐにペンをとり、手紙を書き始めました。

フィノ師の手紙はツタエバチの足にくりつけられ、涼風と共にウタカゼの元へと運ばれて行きました。

ここで、フィノ師はそれぞれのPCにツタエバチで手紙を出したこととなり、PCはフィノ師の部屋に呼ばれます。

GMはPCがフィノ師に呼ばれるまで何をしていたかをプレイヤーに尋ねてもよいでしょう。

PC全員が部屋に着いたら次の文章を読み上げてください。

フィノ師はウタカゼが部屋に着いたことを確認すると、使命の内容を話し始めました。

「今日呼んだのは、まよい森の感謝祭に参加してもらいたいからなの」

「感謝祭には多くの言葉ある種族が集まるのだけれど、まよい森に住む動物たちも木の実や果物の香りに誘われて寄ってくるの。その中にはお腹を空かせて我を忘れてしまう動物もいて、毎年、しっぽの騎士たちと協力して、感謝祭に来るお客さんを守っているのよ。本当なら私が行きたいところなんだけれど、新しいウタカゼたちの訓練があるから行けないの。そこで今年は私の代わりに行ってきてもらいたいんだけど……いいかしら？」

PCが感謝祭に参加することを宣言したら、GMは

次の文章を読み上げてください。

「ありがとう。私の代わりにあなちたちが行くことはこの手紙に書いたから、まよい森に着いたら、主催者である2人——グリーンがホーラスに渡してちょうだい」

このとき、フィノ師はリーダーにグリーンとホーラスへの手紙を渡します。

[アイテム：フィノの手紙]をリーダーのリュックサックに記入してください。

「使命はもちろんだけど、ちくまんの木の実や果物、催しものとかもあるから楽しんできてね。それと、まよい森までは遠いからフクロウに乗っていくといいわ」

フィノ師はそういうと、ウタカゼを見送りました。

GMはPCに乗りフクロウのシートを配り、必須事項を記入させてください。

▶ストーリー①に進む。

■ターニングクエスト

まよい森に到着したウタカゼ。

辺りには、シイの実を玉に使った的当てや、ままざまな動物を模したお面といったお祭り定番の露店はもちろんだこと、リス族特製のゆんぐりクッキーに、まよい森で取れたアドウを使っただろうアドウ、ハチミツ酒などの甘い香りが立つ感謝祭ならではの屋台も出され、木の実や果物が大好きなリス族とネズミ族を中心に大勢の者が集まって感謝祭を楽しんでいるようでした。

するとそこへ、感謝祭の主催者の1人であり、ネズミ族の王でもあるグリーンがウタカゼたちを近づけてきました。

グリーンはウタカゼの姿を見て不思議そうに首をかしげます。

「もしかして君たちはウタカゼ様ッチュか？ てっきり今回もフィノまんが来ると思ってちチュけど、何かあったんでチュか？」

PCが「フィノの手紙」をグリーンに提示したら、次の文章を読み上げてください。

「フィノまんは急用でこれなくなっただんチュか。わかっ

ちチュ。では、代わりによろしくお願ひしますッチュ！」

手紙を読むとグリーンはぺこりと頭を下げました。

「話は聞いているとは思いますが、感謝祭の見回りをしてほしいのでチュ。そのほかにも色々感謝祭の手伝いをしてもらいたいのでチュが、今は人手も足りているので感謝祭を楽しみながら、見回りをしてほしいッチュ」

グリーンはそう言うよ、

「じゃあ、僕は用があるからまたあとでッチュ！」

とその場を去っていきました。

ここでPCにはお祭りを楽しんでもらいます。

GMは感謝祭でPCがどんな行動をしたかを聞いて、全員に聞き終わったら、次の文章を読み上げてください。

ウタカゼが屋台に沿って歩いていると、そこかしこも大きく大きな声が聞こえてきました。

「感謝祭の名物、ハチミツのマフィン大食い選手権の参加者はまざまざ受け付けてるよー！ コビット族とリス族が作った、ここでしか食べられないおいしいマフィンだよー！」

その声は、ドンクリで頬袋がぷっくりと膨らんだリス族の青年のもので、青年の周りには多くの人ばかりができていました。大食い選手権にしようよ、恰幅のいい大人から体の小さな子供まで、様々な者が受付に並んでいます。

「よかったです参加しませぬか？ ウタカゼまん」

突然聞こえてきた声は、ウタカゼが後ろを振り返ると、もう1人の主催者である、リス族の王——ホーラスが立っていました。

長いひげを生やしたホーラスはリス族にも関わらず、ゆっくりとした口調で、

「フィノまんの代わりに、感謝祭を見回してほしいですな。ありがとうございます。よかったです、名物の大会に参加してみたいかがかな？ 賞品も出ますし、来られなかったフィノまんのお土産にもなるでしょう」と大食い選手権に出る事を勧めてきました。

GMはPCが大食い選手権に参加するなどの宣言をしたら、次の文章を読み上げてください。

「それでは、参加者の皆さんはそれぞれ決められたテーブルの前に立ってください」

参加者の前にある木のテーブルの上には、お皿のっただマフィンが5つずつと、水が置いてありました。

会場にはマフィンの甘い香りが漂い、食欲を刺激します。

ホーラスはリス族の青年の代わりに壇上に上がって、「諸君、用意はできかね。制限時間は20分。それではよい………始め！」

合図の笛を鳴らしました。

●ハチミツのマフィンを食べる

PCは目の前のどんぐりクッキーをできるだけ多く食べて、賞品を勝ち取ってください。

行為判定(全員): [身長の数値+6D6] ≥ 35で成功。

成功 ▶ まわりの人よりも多く平らげた！

全員失敗 ▶ お腹いっぱいになってしまい、あまり食べられなかった……。

また、複数でプレイしている場合は、35以上出たPCのなかで、一番大きい数字を出した人をGMは確認しておいてください。

上記を判定したあと、以下の文章を読み上げてください。

「終了———！」

終了の声と共に、角笛の音が会場に鳴り響きます。

判定員のリス族たちは、素早く平らげろお皿の集計を取って、ホーラスへ伝えていきます。

しばらくすると、再びホーラスが壇上に上がってきました。

「みんなよく頑張った。今年はなかなか強者が揃っていたようで、全員が僅差の勝負となった。では、優勝者を発表する」

そういうと辺りは静かになり、会場にはドコドコと小太鼓の音が鳴り始めました。

「優勝は——」

●優勝者がPCの場合は次の文章を読み上げてください。

「(一番大きい数字を出したPCの種族と名前)！」

ホーラスの声に会場からは大きな歓声と拍手が沸き立ち、まよい森中に響き渡りました。

「初めてとは思えない素晴らしい食べっぷりでしたな。是非来年も参加してください」

●PCが全員失敗した場合は次の文章を読み上げてください。

「リス族のコンドラ！」

ホーラスの声に会場からは大きな歓声と拍手が沸き立ち、まよい森中に響き渡りました。

「初めてにしてはなかなかの健闘ぶりでしたな。よから来年も挑戦してください」

ホーラスは(優勝者の名前)を呼び、

「優勝賞品の木の実とハチミツの焼き菓子1年分ですぞ。おめでとう」

袋いっぱいに入った木の実とハチミツの焼き菓子(優勝者の名前)に手渡そうとした、その時でした。

バサバサバサ。

よこから羽音が聞こえてきました。会場にいる者たちがよめき、あたりを見回します。すると、なんとということでしょう。森の奥から大量のカラスが姿を現し、露店や感謝祭に来ているお客さんを襲い、食べ物を取っていきます。

そして、優勝賞品の目を付けろ1羽のカラスがホーラスに向かって襲いかかってきました。

●ホーラスを守れ！

ウタカゼは襲いかかってきたカラスからホーラスを守らなくてはなりません。

行為判定(全員): [知恵] + 〈狩り〉or [愛情] + 〈歌〉(難2)

1人成功 ▶ カラスは驚き、森の奥へ逃げていった。

全員失敗 ▶ カラスにクッキーの入った袋を奪われてしまった……。「カラスの行方②」を読み上げてください。

この時、PCのうち1人でも【愛情】+〈歌〉で成功した場合、「カラスの行方①」を読み上げてください。

それ以外の場合は「カラスの行方②」を読み上げてください。

●カラスの行方①

歌を聞いたカラスはハッとして、逃げるごときなくこちらに向かって何か伝えろように鳴いています。

行為判定(全員): [愛情] + 〈心話〉(難2)

1人成功 ▶ カラスの伝えたいことを読み取った。

全員失敗 ▶ 何を伝えたいのかわからず、カラスは悲しそうに森の奥へ戻って行った。「カラスの行方②」を読み上げてください。

●成功した場合は次の文章を読み上げてください。

ウタカゼの頭の中に飛びこんできたのは、3つの赤い眼と3本の黒い鉤爪を持った大きなカラスでした。

カラスたちは突然森に姿を現した大きなカラスに脅まれ、食料を集めてくるように指示されたようです。

伝え終えたカラスは、逃げるように森とは別の方向へ飛んでいきました。

●カラスの行方②

ウタカゼは周りのカラスたちを追い払っているよ、「ウタカゼ様！」

背後からグリンの声が聞こえてきました。

「どうやらこのカラスたちは親玉の元へと食べ物を持って運んでいるらしいのでチュ。マキは3つ目で足が3本生えた大きなカラスが飛んで行くのを見ましたチュ！」

PCはその情報を元にカラスの正体をホーラスに聞くことができます。

GMはPCの質問に合わせて、以下の情報を伝えてください。

・ホーラスの知っている情報

「それはデスクロウという悪意の精霊ですな」

「数ヶ月前、その鋭い鉤爪と狡猾さで近くのネズミ族の村が襲われたと聞きましたぞ」

「しかし、それ以来姿を現さないのよ、いなくなるとばかり思っていましたか……」

「ままか、まよい森に住みつて感謝祭が行われるこの日を待っていたとは、なんと恐ろしい奴ぞ」

一通りの質問が終わったタイミングで、GMは以下の文章を読み上げてください。

「弓兵、撃てチュ！」

まだ残っていたカラスに対して、しっぽの騎士たちが矢を撃ちます。

すると、カラスは矢を恐れ、見る見るうちに屋台から離れていきます。

「ウタカゼ様！」

騎士たちの指揮をとっているグリンが叫びました。

「ここは僕と騎士団に任せて、カラスを追ってくださいチュ！」

GMはPCが「森の奥へ行く」「カラスを追いかける」

などの宣言をしたら、次の文章を読み上げてください。

「奴は危険ですぞ。よかつたこれを持っていきなさい」

ホーラスが差し出したのはノコギリソウでした。

「もし傷ついたらこれで回復してください」

[アイテム:ノコギリソウ]をPC全員のリュックサックに記入してください。

「確か、フクロウに乗ってきていましたっけね。フクロウに乗って上空からカラスを追ってくださいチュ。よろしく頼みますチュ！」

ウタカゼはフクロウを呼んで飛び乗ると、黒い翼を追って空高く飛び上がりました。

▶ストーリー⑦に進む。

クエスト 戦闘 41 カラスの襲撃			
カラスたちが君たちの行く手をふさいでいる。黒い翼を羽ばたかせ、黒いクチバシをカチカチと鳴らし、赤い瞳をしたカラスたちは大きな声で鳴きながら、君たちに襲いかかってきた。			
対戦する敵の情報			
敵名	《悪しきもの》カラス (→RB:P131)		敵数
攻撃方法	【知恵】+【狩り】	【希望】が低い者	敵の機序
勝利	悪しきカラスを倒した。仲間可		⇒
撤退	全員の【希望】に[1D6-1]ダメージ。		➡

■エンディングクエスト

ウタカゼはカラスたちが食べ物を集めている場所を発見しました。多くのカラスたちはそこを囲うように、辺りの木々に止まっています。

その中心には、ホーラスの言っていた悪意の精霊——デスクロウがいました。デスクロウの目の前には大量に集まった食料がありました。

どうやらデスクロウは目の前の食料に夢中でまだこちらには気がついていないようです。

●こっそりと近づけ！

今なら背後にこっそりと近づいて、気づかれずに攻撃ができそうです。

行為判定(対抗)：【知恵】+〈感覚〉VS [デスクロウ
の【狡猾】+〈感覚〉]

ようです。

全員成功▶気づかれることなく近づくことに成功！
そのままデスクロウとの戦闘に入り、最初の攻撃の
みPCは先攻を取ることができます。

1人失敗▶気づかれてしまった……。

●**失敗した場合は次の文章を読み上げてください。**

背後にこっそりと近づいてきたウタカゼに気が付
いたデスクロウは、大きな翼をはためかせて突風を
起こしました。

●**突風に負けるな！**

しっかりとフクロウに捕まっていなければ、この
ままでは身体が吹き飛ばされてしまいそうです。

行為判定(全員)：【勇氣】+〈騎乗〉(難2)

成功▶何とかしがみつき飛ばされなかった。

失敗▶風に飛ばされフクロウから落ちてしまった。
木がクッションになったおかげで致命傷は追わずに
済んだが……。【希望】に[1D6-2]のダメージ。

デスクロウは大きな鳴き声でウタカゼたちを威嚇
して、黒い翼を広げると、襲いかかってきました。

●**デスクロウとの戦闘**

「デスクロウ(屍閻魔)」(→RB:138)1体との戦闘
を開始してください。

■**エピソード**

デスクロウはつんざくような悲鳴を上げ、大きかっ
た身体はみるみるうちに黒い霧となって空に吸い込
まれて行きました。周りのカラスたちはどこか嬉し
そうな鳴き声を上げます。

気が付けば辺りは夕焼けに染まり、ウタカゼたち
も優しいオレンジ色に包まれていました。

すると、カラスたちは集めていた食料を持ち、感謝
祭の会場へと飛んでいきます。どうやら、元あつ
た場所へと戻すようです。

夕焼けの空に映るカラスたちの影。感謝祭も再び
にぎやかになってきました。

涼風が秋と共に運んできたトラブルは、落ちる太
陽と共に終わりを告げました。しかし、まだ秋は始まっ
たばかり。感謝祭も一晩中続きそうです。

誰もが楽しみにしていた秋はまだこれから

〈おしまい〉